

令和7年度 新生野中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 「全国学力・学習状況調査」の調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 「中学生チャレンジテスト」の調査の目的

- (1) 大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。
加えて、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学者選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。
- (2) 市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、学力向上のためのPDCAサイクルを確立する。
- (3) 学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。
- (4) 生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。

1 全国学力・学習状況調査

※中学校理科はICT端末等を用いた、文部科学省CBTシステム（MEXCBT）によるオンライン方式（以下、「CBT」【=Computer Based Testing】とする）で実施。

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均正答率(%)		平均無解答率(%)	
			国語	数学	国語	数学
3 年 4月17日	学校	96	44	32	10.3	19.4
	大阪市	—	52	46	6.8	11.2
	全国	—	54.3	48.3	6.7	10.6

	平均IRTスコア	
	理科	
学校	431	
大阪市	489	
全国	503	

※IRTとは、国際的な学力調査等で採用されているテスト理論です。

この理論を使うと、異なる問題から構成される試験・調査の結果を、同じものさし（尺度）で比較することができます。

※IRTスコアとはIRTに基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で表すものです。

2 中学生チャレンジテスト

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均点(点)					平均無解答率(%)				
			国語	社会	数学	理科※	英語	国語	社会	数学	理科※	英語
3 年	学校	97	58.2	42.9	43.6	36.6	46.4	9.1	8.7	14.7	16.2	11.1
	大阪市	—	64.8	51.5	54.3	46.5	54.4	6.1	5.8	11.1	9.4	6.5
	大阪府	—	64.2	51.2	53.9	46.0	53.2	6.8	6.5	12.1	11.0	7.4

※ 3年生の理科はB問題を選択

令和7年度 新生野中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

【成果と課題】

○全国学力・学習状況調査結果

〈国語〉

本校の平均正答率は44%となっており、大阪府の平均より8%、全国の平均より10.3%低い結果となった。また無回答率は、10.3%で大阪府の平均より3.5%、全国の平均より3.6%高い結果となった。特に記述式の問題での無回答率が高く、記述問題への苦手意識が高いと考えられる。また、問題の後半になるにつれ無回答率が高くなる傾向にあり、最後の問題まで解くことができなかった生徒も多かったと考えられる。

〈数学〉

本校の平均正答率は32%となっており、大阪府の平均より15%、全国の平均より16.3%低い結果となった。すべての分野において大阪府の平均を下回っており、20%ほど低い設問も15問中3問あった。無回答率は、「説明する」「証明する」設問が大阪府のそれより16%～18%高く、記述式の問題を「読む」「考える」「表現する」力に課題がみられた。

〈理科〉

平均IRTスコアは、大阪府より56ポイント、全国より72ポイント低い結果となった。また、IRTバンド3の割合においても大阪府より11.6%、全国より14.2%低い結果となった。身の回りの事象から生じた疑問や見出した問題を解決するための課題を設定できるかという項目では、大阪府の平均より6.2%、全国の平均より12.2%低い結果となっており、課題解決型の問いに対する苦手意識が高い傾向にあると考えられる。あわせて、記述式の問題においては、無回答率が大阪府と比較して約2倍の割合となっている。

【今後に向けて】

○全国学力・学習状況調査結果

〈国語〉

記述式の問題の無回答率を下げるために、文章を要約したり、文章に対しての自分の考えをまとめたものを記述する取り組みを行い、記述への苦手意識を無くしていく。知識の問題に関しては、毎週漢字の宿題とそれに関する漢字の小テストを行うなど、定期的に課題を出すことで学習の習慣と知識の定着を図り、正答率を向上させていく。また、時間がなく取り組むことができない問題が出てくることがないように、時間配分を考え、すべての問題に取り組むことを意識してテストに臨むよう指導していく。

〈数学〉

計算力を上げるため、毎授業で5～7問のプリントを冒頭に実施し、答え合わせ・解説での理解・定着を図る。また、家庭での勉強時間を増やし学習習慣を定着させるため、週末に宿題プリントを発行する。試験前にはテスト対策プリントを出し、興味関心を持たせる。数学の学力UPを希望する生徒には放課後・夏休みを利用して個別学習を実施する。方程式・関数・図形の領域の今後の授業で、1・2年の内容を振り返るなど、3年との内容の関連性を持たせながら理解・定着を図る。

〈理科〉

課題解決型の問題の正答率を上げるために、授業内で生徒が主体的に課題を発見し、解決策を検討する機会を増やす必要がある。また、自らの考えなどを文章で表現する力の育成を図りたい。

令和7年度 新生野中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

【成果と課題】

○中学生チャレンジテスト(3年)

〈国語〉

本校の平均点は58.2点となっており、大阪府の平均点である64.2点より6ポイント低い結果となった。現在の3年生が2年時に受けたチャレンジテストでは平均点が大阪府の平均より10.9ポイント低かったことを踏まえると学力は向上していると考えられる。

〈数学〉

本校の平均正答率は43.6%となっており、大阪府のそれより10.3ポイント低い結果となっている。「数と式」「図形」「関数」「データの活用」の4領域とも2～3ポイント下回った。設問別では、関数全般および、「正の数・負の数の計算」「根号を含む式の展開」「連立方程式を解く」「平行線の角の大きさを求める」「度数分布表からわかること」「箱ひげ図の範囲と四分位範囲の大きさ」が府平均と大きく差が開いていた。

〈英語〉

大阪府の平均点よりマイナス6.8点という結果となったが、2年時より2.6点アップした。聞くこと、読むことに関してはかなり大阪府の平均に近づいたが書く力がマイナス4.7点という結果であった。観点別においては知識技能がマイナス5.3点ということからも語彙力や基礎文法の強化が今後の課題点である。

〈社会〉

本校の平均点は大阪府平均51.2ポイントと比べ42.9ポイントと、8.3ポイントの差があった。地理的分野で、地形図を使った問題や地図上でどこにあるかの問題においては府との正答率の開きが大きかった。歴史的分野では、用語の組み合わせなどの問題は府と差が縮まるが、仕組みを理解する問題や記述形式になると差が大きくなっている。

〈理科〉

本校の平均正答率は36.6%となっており、大阪府の平均より9.4%低い結果となった。すべての領域において、大阪府の平均を下回っている。思考・判断・表現の観点では4.1ポイント、知識・技能の観点では5.3ポイント下回った。知識・技能の定着に課題があるとみられる。

【今後に向けて】

〈国語〉

知識・技能の観点の設問での得点率が低かったので、得点率が上がるよう文法や漢字などの復習にも重点を置いた授業を行うとともに、日常生活の様々な場面で言葉に関心を持つように指導を行うことで知識の定着を図っていく。

〈数学〉

昨年と比べ、府平均との比較で正答率が3ポイント上昇したことをふまえ、計算の復習や「関数・データの活用」の領域の復習など今後の授業プリントや週末のプリントに組み込んで学力の定着・向上に努めたい。

〈英語〉

基礎力の強化を目指し、引き続き語彙力と基礎文法の取り組みを進めていく。また記述式問題に対応するため教科書本文の要約活動や作文の取り組みも重ねていく。

〈社会〉

1、2年生で学習した範囲の復習を効果的に取り入れること、家庭での復習の時間を確保するよう働きかけていく。普段から地図に親しむよう取り組んでいく。基礎的な内容を繰り返すことにより、正しく用語を理解し、政治体制の仕組みや結果などについても記述式で説明できるような取り組みを増やし、思考・判断の能力を高めていく。

〈理科〉

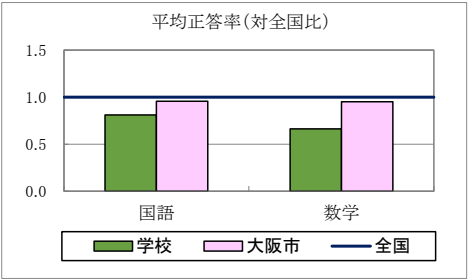
各章単位で理科用語の小テストを行うなど、知識の定着を図り、正答率を向上させていく。また、実験等を通して理科に対する興味・関心をひき、生徒が主体的に課題を発見し、課題解決を行う機会を増やし、思考・判断・表現力を向上させていく。

令和7年度 新生野中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

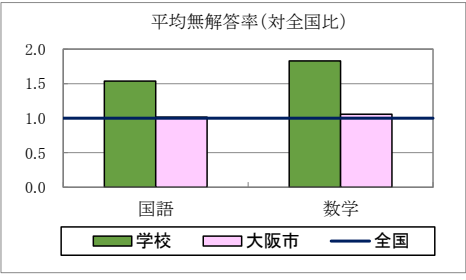
全国学力・学習状況調査 教科に関する調査より

【 全 体 】

	平均正答率(%)	
	国語	数学
学校	44	32
大阪市	52	46
全国	54.3	48.3

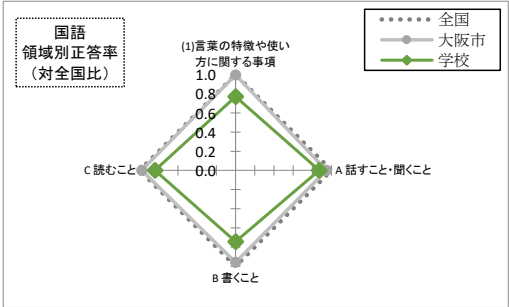
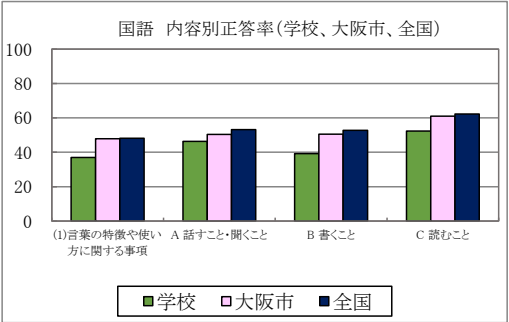


	平均無解答率(%)	
	国語	数学
学校	10.3	19.4
大阪市	6.8	11.2
全国	6.7	10.6



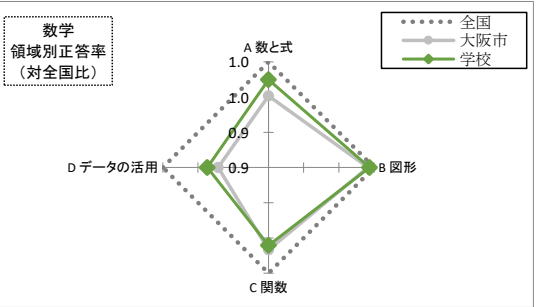
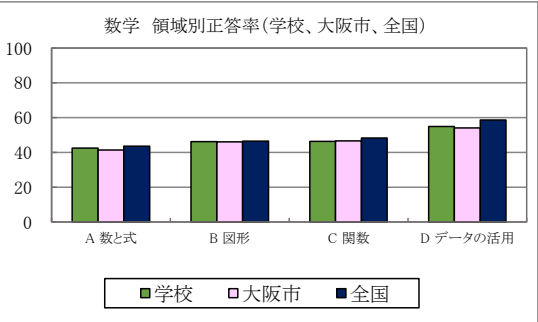
【 国 語 】

学習指導要領の 内容	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い 方に関する事項	2	37.0	47.9	48.1
(2)情報の扱い方に 関する事項	0			
(3)我が国の言語文化 に関する事項	0			
A 話すこと・聞くこと	4	46.4	50.4	53.2
B 書くこと	5	39.2	50.6	52.8
C 読むこと	3	52.4	61.0	62.3



【 数 学 】

学習指導要領の 領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と式	5	42.4	41.4	43.5
B 図形	4	46.2	46.1	46.5
C 関数	3	46.3	46.6	48.2
D データの活用	3	54.9	54.0	58.6

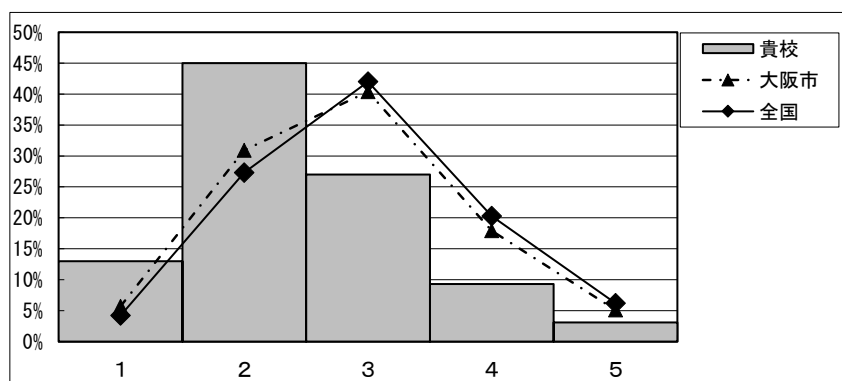
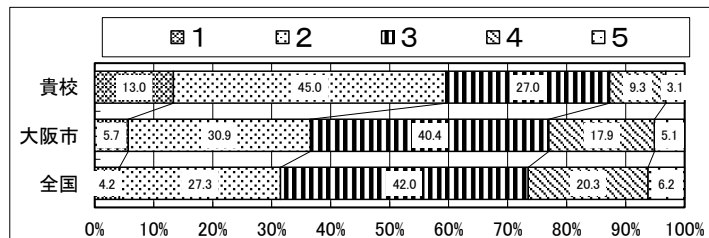


令和7年度 新生野中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

全国学力・学習状況調査 教科に関する調査より

【理 科】

	平均IRTスコア
学校	431
大阪市	489
全国	503



令和7年度 新生野中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

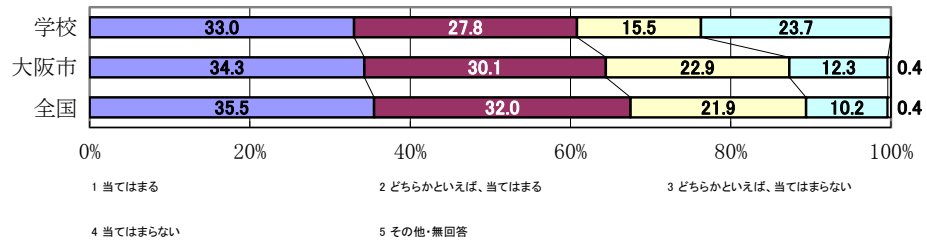
生徒質問より

1 2 3 4 5 6 7 8

質問番号
質問事項

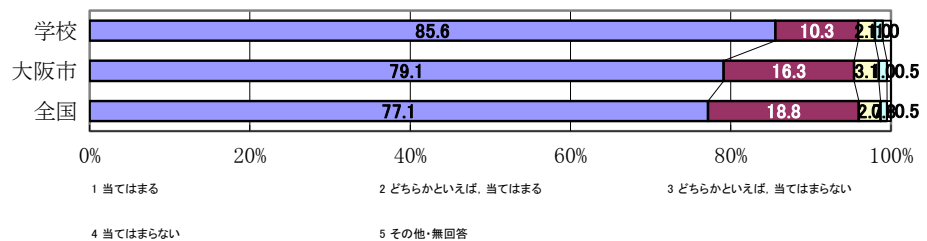
7

将来の夢や目標を持っていますか



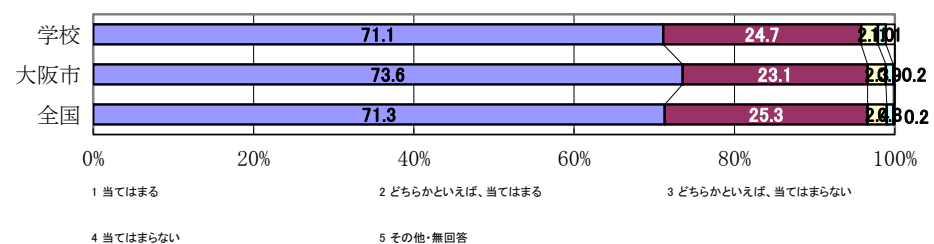
9

いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか



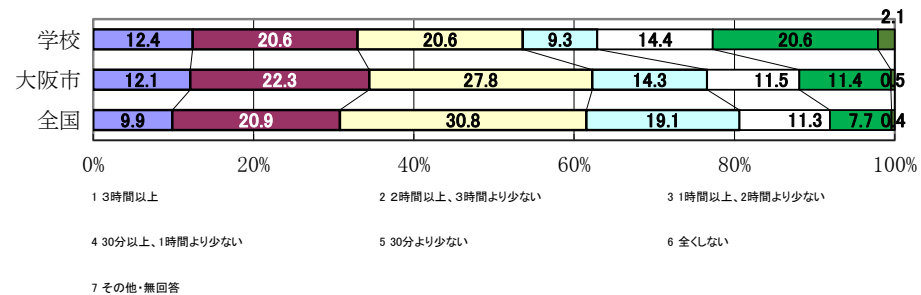
11

人の役に立つ人間になりたいと思いますか



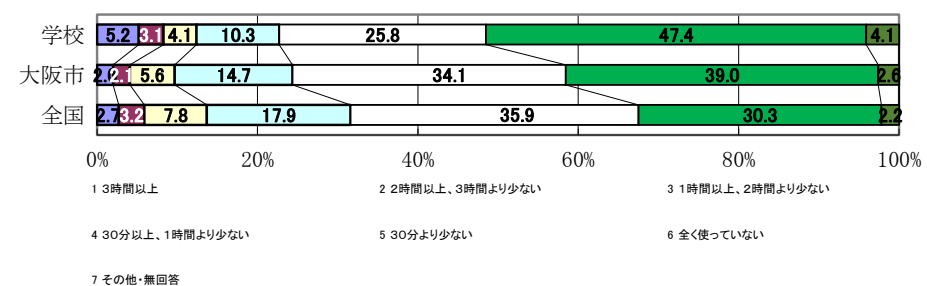
17

学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）



18

学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、PC・タブレットなどのICT機器を、勉強のために使っていますか（遊びなどの目的に使う時間は除く）



令和7年度 新生野中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

学校質問より

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

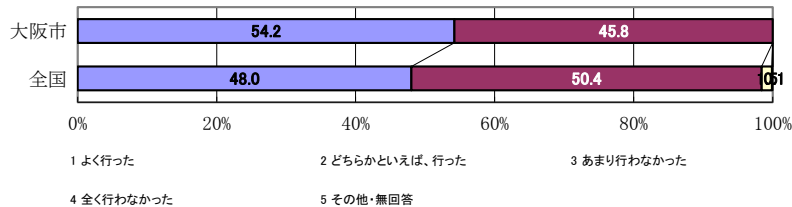
質問番号

質問事項

9

調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしましたか

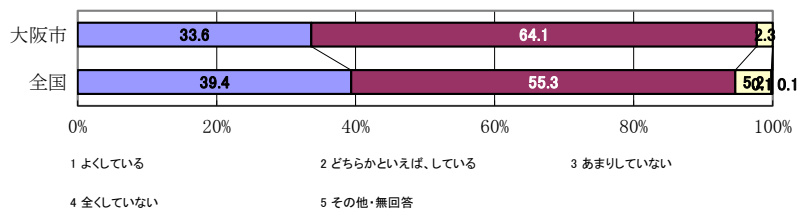
学校 「よく行った」を選択



17

言語活動について、国語科を要しつつ、各教科等の特質に応じて、学校全体として取り組んでいますか

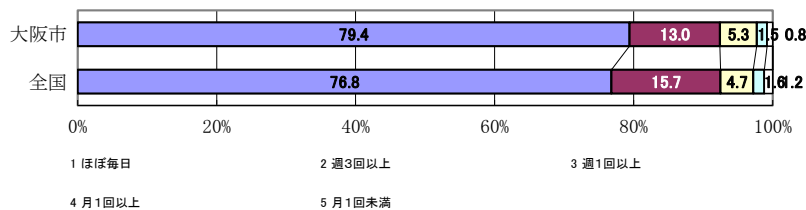
学校 「どちらかといえば、している」を選択



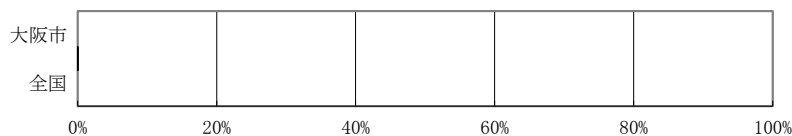
55

前年度に、教員が大型提示装置等(プロジェクター、電子黒板等)のICT機器を活用した授業を1クラス当たりどの程度行いましたか

学校 「ほぼ毎日」を選択



学校 「」を選択



学校 「」を選択

